

株式会社桂精機製作所による東京瓦斯電炉株式会社の株式 100%譲受による経営権取得

(合意契約締結時期) 1997年8月

(当社の立場) 東京瓦斯電炉の依頼により桂精機製作所へ提案。双方からの依頼による仲介。

(案件の意義)

弊社社長著「会社を譲るころ」(同友館)の読者としての東京瓦斯電炉社長から売却の可否と売却可能であれば相手先企業の選定に関する相談を受ける。一方、桂精機製作所は翌期の決算を基に店頭公開を申請する予定のガス供給機器の優良メーカーであったが、かつて、東京瓦斯電炉の事業である燃焼機器分野に進出を計画し、一部参入しかけていたところであった。東京瓦斯電炉社長は30代と若く、バブル崩壊後の経営に対する手腕に自信をなくしているところであり、中堅企業の経営に絶対的な自信をもつ桂精機製作所の社長・専務に経営を委ねることとなった。その結果半年で黒字転換。